kintoneのデータを活かす 設備状態の可視化

キンスコープ＋

工場レイアウトで、設備の状態と数値をひと目に

工場の今を、ひと目で。
kintoneで設備の見える化

工場全体の状態と生産数値を、一画面に。



配置がわかる。状態がわかる。数値がわかる。

工場の背景画像にランプや数値を重ねて、
現場の設備配置に合わせた画面を構築します。

位置と状態を把握

レイアウトとランプで表示

生産数値を集約

最新レコードの値を表示

現場に合わせて設定

部品を選んで自由に配置

現場の情報を、見える配置へ。

設備名の一覧だけでは伝わりにくい「どこで、何が起きているか」を、工場の配置と結び付けます。

01

場所をつかむ

工場やラインの画像を背景に、設備の位置へ表示部品を配置。

02

状態を読む

運転・停止・異常などを、ランプの色と文字で見分けます。

03

数値を確認

生産数・良品数・不良数など、参照フィールドの値を表示。



kintoneの蓄積データを、現場の共通画面に。

確認したい設備や項目を選び、担当者間で同じ状況を共有できます。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

設備の位置が、そのまま画面に。

背景画像に設備ごとの表示を重ねることで、実際の現場と照らし合わせながら確認できます。



工場・ラインに合わせて配置する。

見慣れた設備配置の上にランプと設備名を配置。背景画像は、工場やラインに合わせて用意できます。

必要な情報だけを、見やすく。

設備の識別名と状態表示を組み合わせ、位置・文字サイズ・部品の大きさを整えます。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

色と文字で、状態を見分ける。

参照するフィールドの値に応じてランプ表示を切り替え、設備の状態を確認します。



運転

停止

異常停止

原点復帰中

表示条件を、設備の状態値に対応付け。

運転・停止・異常など、参照データの値と表示の組み合わせを設定します。色だけに頼らず、状態名も添えて伝えられます。

設備ごとに参照条件を分ける。

同じアプリに複数設備のデータがある場合は、設備を識別する条件を指定。各設備に対応するレコードを表示します。

色と状態名は設定例です。表示する条件・名称・色を、現場の運用に合わせて整えます。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

生産数値を、状態と並べて。

設備の状態だけでなく、確認したい数値を同じ画面へ。画面を行き来する手間を減らします。



生産数・良品数

生産実績として記録されたフィールド値を表示します。

不良数・計画数

品質や計画に関わる数値も、参照する項目を指定して配置。

ラベルと表示枠

項目名や色を整え、見たい数値を読み取りやすくします。

値の出どころをそろえ、読み違いを防ぐ。

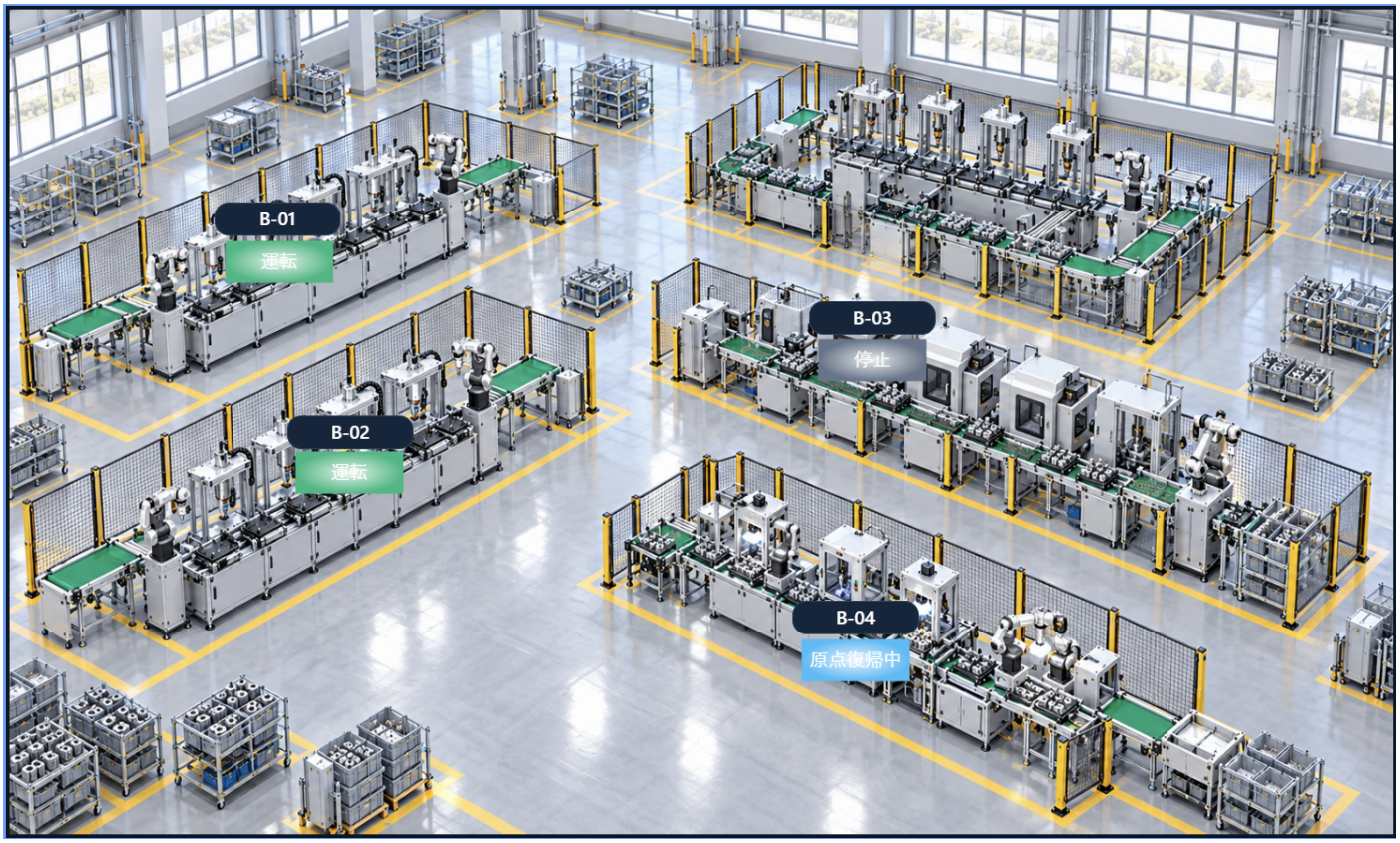
設備・対象期間・数値の意味を確認し、対応するアプリとフィールドを設定します。数値の集計や計算が必要な場合は、参照するデータ側で用意します。

画面例：生産数 241／良品数 216／不良数 25／計画数 1000。いずれもデモ画面の表示値です。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

工場ごと、ラインごとに切り替え。

複数の画面を用意し、対象の工場や生産ラインに合わせて表示を整理できます。



A工場とB工場を、目的別のタブに。

A工場ではKPC2 DEMOの実データと展示設備を表示。B工場では4台の展示設備を配置した画面を用意しています。

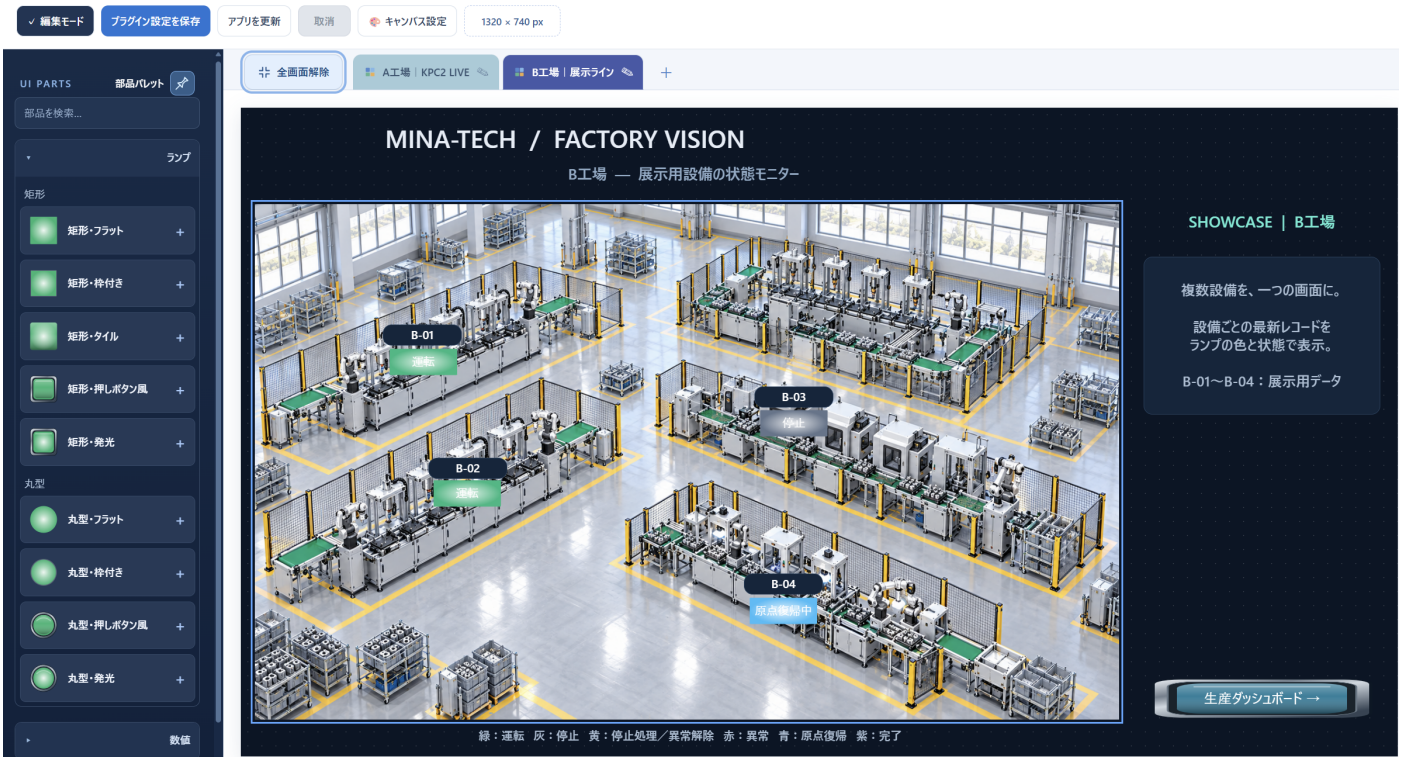
画面ごとに、背景と部品を構成。

対象に合わせて設備数や配置を変えられます。全体を見る画面と、特定のラインを見る画面を分ける使い方にも。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

見ながら配置、自分の現場に。

プラグイン設定画面で部品を選び、背景画像に合わせて画面を組み立てます。



01

部品を選ぶ

左の部品パレットから、ランプや数値などを選択します。

02

画面に配置する

設備の位置に合わせて、表示部品の位置や大きさを整えます。

03

設定を反映する

参照先や表示を確認して保存。アプリを更新します。

掲載画面：ユーザー提供の実際のプラグイン設定画面。

表現を選び、見やすさを整える。

表示する情報の役割に合わせて、部品を使い分けます。



ランプ

矩形・丸型などから選択し、状態の変化を色や文字で表示。

数値・文字列

kintoneのフィールドに記録された値や文字を、必要な場所へ配置。

ラベル・画像・図形

設備名や説明、背景画像などを組み合わせ、画面の情報を整理。

リンクボタン

関連するページへの導線を配置し、次に確認する情報へつなぎます。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

kintoneのレコードを、表示へ。

設備のデータがkintoneに記録されると、設定した更新間隔で画面の情報を読み直します。

設備・PLC

状態や数値を取得

kintone

アプリにデータを記録

キンスコープ＋

レコードを参照して表示

KPC2と組み合わせた設備データの可視化。

KPC2などでPLCのデータをkintoneへ記録し、キンスコープ＋が参照します。本デモではKPC2 DEMOの数値・状態を表示しています。

キンスコープ＋は表示を担います。設備からの収集・kintoneへの記録は別途必要です。表示更新のタイミングは、記録処理・通信・更新間隔により異なります。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

データを決めて、画面を育てる。

まずは一つの設備から。参照する項目と表示のルールを決め、少しずつ対象を広げます。

01

見たい設備と項目を決める

設備名・運転状態・生産数など、画面で確認したい情報を整理します。

02

参照アプリと条件を設定する

アプリ・フィールド・設備を識別する条件を指定し、取得するデータを確認します。

03

背景と表示部品を配置する

工場レイアウトを背景に、状態ランプ・数値・名称を配置します。

04

保存して、アプリに反映する

設定を保存してアプリを更新。表示画面で数値・ランプの対応を確認します。



掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

同じ画面を見て、状況を共有する。

確認したい情報を一画面にまとめ、日々の声かけや設備の状況確認に活用できます。

01

朝の状況確認

工場・ラインの画面を切り替え、設備の状態と数値を確認。

02

作業中の状況共有

状態表示を手がかりに、担当者が確認する設備を把握。

03

現場と管理側の共有

kintone上の同じ情報を参照し、認識をそろえます。



運用前の確認：参照先の閲覧権限、設備の識別条件、状態値とランプの対応、更新間隔を確認してください。画面は取得したレコードを表示するため、データ記録が止まった場合は最新値のまま残ることがあります。

掲載画面は実アプリの設定例です。数値・状態はデモ用データを含みます。

キンスコープ＋

工場レイアウトで、設備の状態と数値をひと目に

工場の今を、ひと目で。
kintoneで設備の見える化。

製品に関するお問い合わせ

株式会社ミナテック

kintoneソリューション推進室

TEL: 0748-64-9045

（受付時間 9:00 ～ 17:00）

※仕様・画面・対応範囲は、予告なく変更される場合があります。
※kintoneはサイボウズ株式会社の登録商標です。
※掲載画面は実アプリの設定例です。デモ用データを含み、工場の背景はイメージです。

2026年11月